

ニュースレター ④  
デントタルタイムズ

第18号  
編集者  
中村美咲

世の中「運と縁？」



文〃中村美咲  
絵〃荒川美和子

あの時私が、定期健診に  
来ていなかっただけ、私はどんな  
十九の夏を迎えていたのだろうか...

テレビをつけると、就職難や不景気  
の話ばかりが目立っています。

高校の同級生は、自分達の  
将来に不安を抱えています。

でも、私は自分の人生で

今が一番大満足している。

と胸を張ってミスマッチのどきどき



四歳の頃、若松に予防で通院

していた私は、学校で歯科検診の日

「美咲ちゃんの歯は、きれいだね。」と

言われるのが自慢でした。

今にして思えば

15年も前から予防に

取り組んでいた若松は

スゴイと思うのですが

何よりも私の歯を

守り続けてくれた

母に感謝です。

勿論、当時、将来私が

歯科衛生士を目指す

事になるなどとは

想像もしていませんでした。

そんな私が、進路を決める

高3の春のある日のこと...



クリーニング終了後

口をゆすいでいた私に

衛生士の荒川さんが

「美咲ちゃん。高3なら

進路はどうするの？」

と聞いてきました。

その時の私には「別に...。」としか

返事のしようがありませんでした。

すると、荒川さんはニコニコしながら

「衛生士っていいよ。」

と口をゆすいでくれたのです。

でも、勉強が苦みだった私は

苦笑いをするのが精一杯でした。

しばらくすると、若松常連の

母と院長先生の間で話は

すっかさ出来上がった





いたりにく、母のロケッ  
 やたらと歯科衛生士という  
 言葉が我が家で連呼される  
 ようになり始めました。

母に説得され

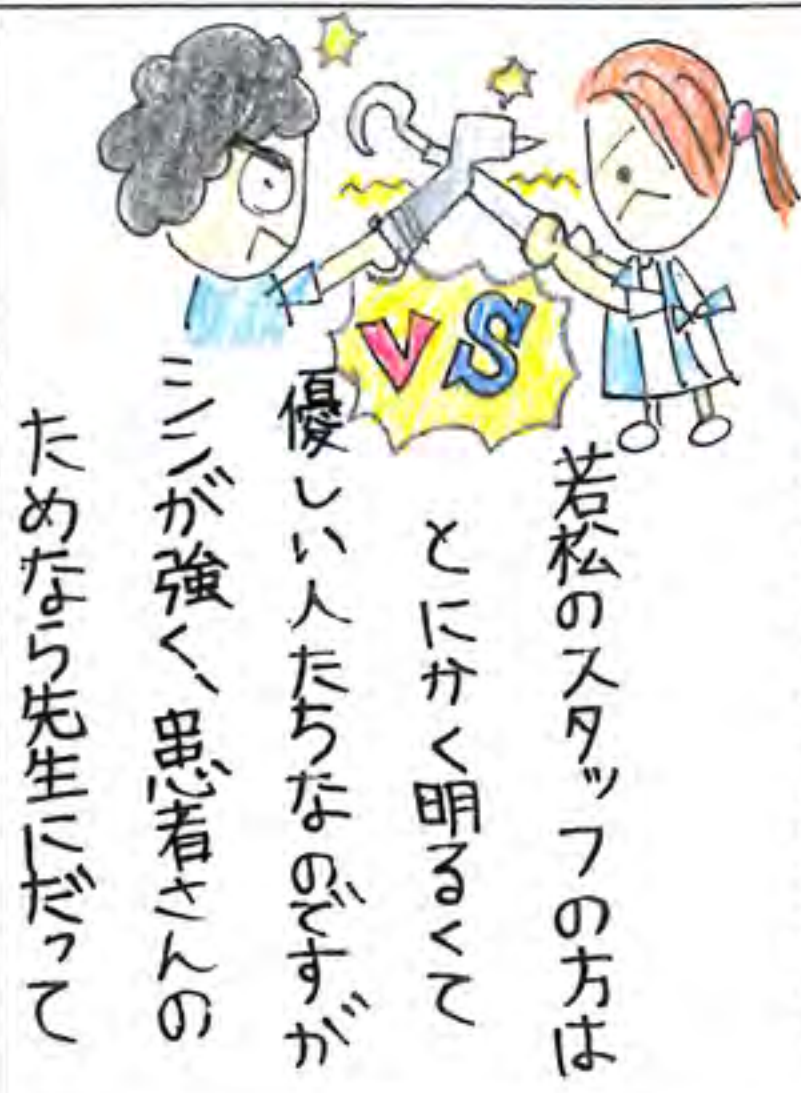
「面倒だなあ」と  
 思いたがらも

恐る恐る若松に見学に行く

自分の中にあつたイメージを

送か上に回る職場である

ことに気がつきました。



若松のスタッフの方は  
 とにかく明るくて  
 優しい人たちなのですが  
 ミミが強く、患者さんの  
 ためなら先生にだって



平気で意見をぶつけて  
 バトルしているのです。

あの当時の私には、まさに  
 『衝撃的映像』でした。

私がバイトをしていた

他の職場では

仕事に対する熱意が  
 まるで違うのです。

実際に勤務が始まると

自分にとって

雲の上のような

存在だった人たちと

同じ白衣を着て

診療室内に立っている

ことが嬉しいやら

恥ずかしいやらで



最初は、どに立って、いのか  
 すり分かりますでした。

そんな私にもスタッフの  
 みなさんは優しく色々な  
 ことを教えてくれました。

予防とは



やがて、歯科衛生士の学校が始まり

『歯科医療の基礎』から  
 スタートしたのですが



正直な話、今までの勉強量

この量に比べ、けろり

たこともありました。

でも今では

『将来の夢は何か?』

と聞かれても

「歯科衛生士です。」と

即答できる自分が

衛生士になるぞい





ちよっと嬉しく

ナニと考える時もあります。

学校では、私と同じく

衛生士を目指して入学

してきました80人の

仲間と楽しい日々を

過ごしていますが

びっくりするともあります。

今時珍しく、寝ていると

頭をひっぱたいたり

ボーっとしていると

チョークが飛んで

くる先生もいます。

聞くところによると

解剖学では、超々有名な

先生らしく、院長先生も

その先生に習ったとのこと。



「今の自分を創ってくれた

恩師の一人として

とても感謝している。」

とも言われました。

まさに『愛のムチ』です。

高校生の時とは違い

目的意識の薄い生徒は

その厳しさに耐え

兼ねて、挫折する人もいます。

でも、私は、自分の人生の中で

初めてできた『夢』に向かって

全力で突き進む毎日が

今、大好きです。

学校に行くと勉強。

若松に来て勉強。

夜遅くまで

先生や衛生士さんと



メールを送ったりしながら、厳しくも

楽しい日々を送っています。

勉強が苦手な私は

毎日が必死です。

でも『歯科衛生士になる』

という夢があるから

辛くても頑張っています。

家族や友達から、まだよくハカから

なののに、「私、歯石付いてるよ」とか

「虫歯あるかしら？」と

聞かれ、「ドキドキする

ことでもあります」が

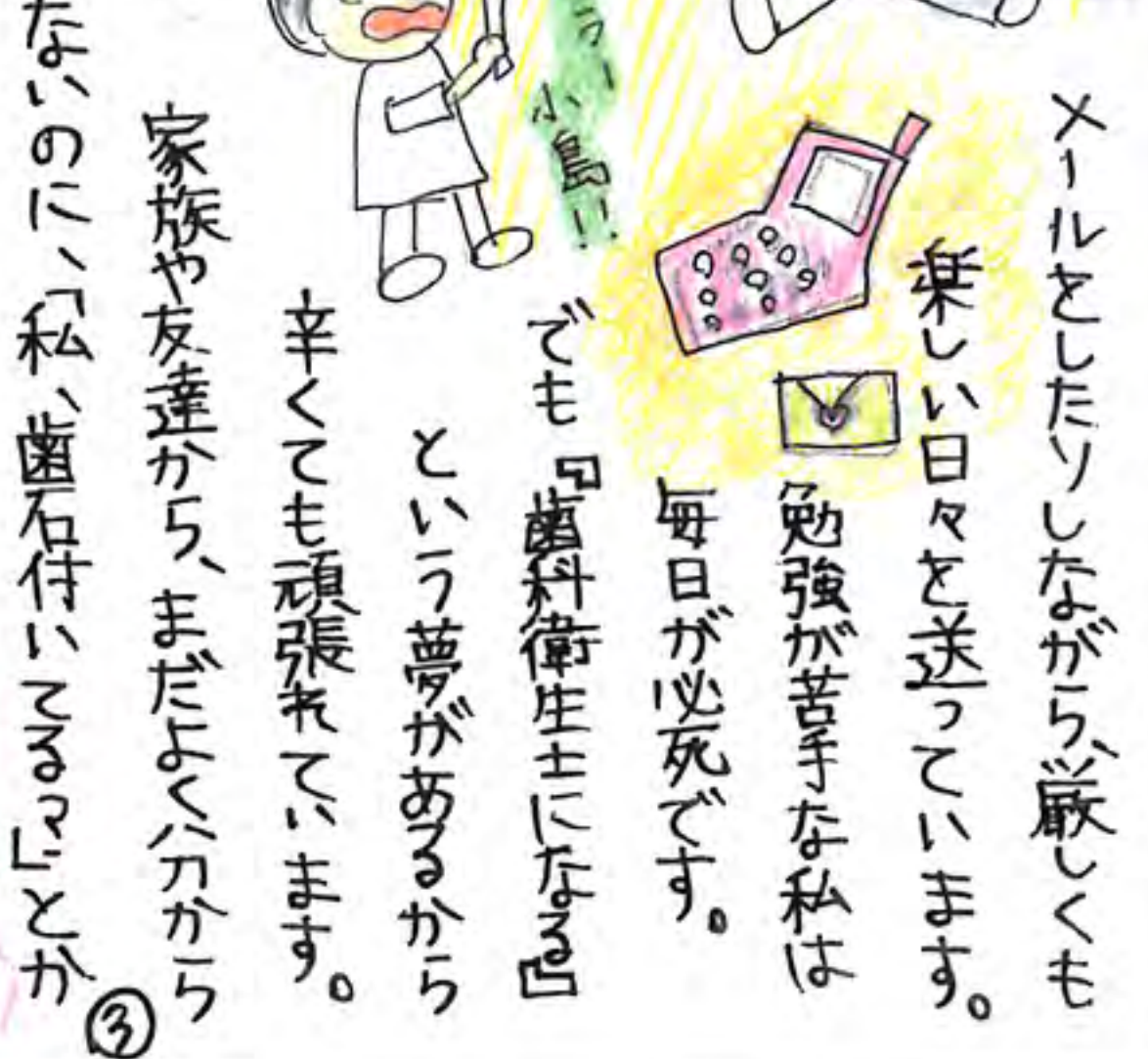
こんな私でも頼ってくれる人が

いることにちよっぴり誇りを

持つこともあります。

ナニに驚くことに

芝川さんや東雲さんは



Question?





